

中学生における課外スポーツクラブの経験と地域スポーツクラブの

経験の違いに関する研究

川島 奨平 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 新井 博

キーワード：中学校内、部活動、クラブチーム

1. 緒言

これまでの中学生の部活動と言えば中学校内の部活動で行うのが一般的なものであった。しかし、近年、滋賀県では中学校外のクラブチームの数(軟式、硬式問わず)が増えている。

私が中学生になる時よりもクラブチーム数が増えており、入部しやすい環境になってきている。このまま中学校内の野球部員が減り続けると、中学校内野球部のレベルの低下や部活動としての活動ができなくなるという事態にもなりかねない。このままでは中学校内で活動していた部員が、一緒にチームでプレーする事になる。そうなればクラブチームと中学校内の部員との野球のレベル、野球を通じての人間形成の差が大きくなってしまふ。このような問題が加速しないために、上記の問題の原因を調べ明らかにする。

2. 研究目的

本研究では緒言での問題を解決するため、クラブチームと学校内の部活動の違いや、それぞれメリット、デメリットを明確にする。さらに、これからの運営、進行に努める事でより良い中学教育に繋がるのではないかと考えたからである。

3. 調査方法

調査内容は以下の通りです。

- ①高校野球部員を対象としたアンケート調査
- ②文献調査

4. 結果・考察

本研究では、中学生における課外スポーツクラブの経験と地域スポーツクラブの経験の違いに関する研究で、中でも課外スポーツクラブの抱える問題の原因を探ることであった。仮説として、指導者の人数や指導力の違いなどを挙げたが、おおよそ推測どおりの結果となった。

特に指導者の指導力の差や監督時間の差は、クラブチームと中学校内部活動では発展速度の違いに影響していることが明らかになった。また、この事実は、中学校内部活動の出身選手よりも、クラブチーム出身選手のほうに多くの利点をもたらしていることも明らかになった。

前述は滋賀県下に限られたものであったため、全国規模について、甲子園出場者の中学校時代の出身チームを文献により調査した。この結果も、前述のアンケート調査同様に、中学校内部活動出身の選手よりもクラブチーム出身選手のほうが多いという結果になった。

義務教育の元に行われるクラブ活動は、公平な活動チャンスを与えるものであり、こちらが盛んであるべきものである。しかし、現在その傾向が薄れつつあることがわかった。最後に、この問題を解決するにあたり、本学の学生の力が活かされる環境づくりを後輩に託したいと考えている。

5. 参考文献

- 1・日本野球連盟, www.jaba.or.jp/
- 2・財団法人日本少年野球連盟, ボーイズリーグ, www.boysleague-jp.org/